

第1学年 国語科学習指導案

は組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名

指導者 石川 雅 仁

1 単 元 こたえをかんがえながらよう (教材「くちばし」光村1年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「はなのみち」の学習で、主人公の行動を中心に内容の大体を読み取る能力や、絵と文や場面と場面を対応させながら読み物を楽しく読む態度を身に付けている。また、自分が想像したこと等を分かりやすく発表したり、いろいろな種類の読み物を読んだりしてみたいという願いをもっている。

そこでここでは、説明文の基本とも言える問いと答えの関係に着目し、内容の大体を読む能力を高め、主述のつながりや文のまとまりを考えながら読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「こたえをかんがえながらよう」(教材「くちばし」)を設定した。

この学習は、働きとつくりの関係などを考えながら内容の大体を読み取る「くらべてよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「くちばし」は、特徴的なくちばしの3種類の鳥を採り上げ、くちばしの形状とそうになっている理由について、イラストや写真とともに解説されている説明文である。また、本教材は、問いと答えの二つの文のまとまりで構成されている。問いのまとまりには、くちばしの形(問いの説明)と問いが、答えのまとまりには答えとくちばしのはたらき(答えの説明①)、えさの食べ方(答えの説明②)が書かれており、それぞれのまとまりごとに別々のページにクイズ形式でまとめられている。さらに、ページに1枚ずつ写真があり、文と対応させながら読み取るのに適した教材である。

そこで本単元では、本教材を用いて5つの文の役割に気付かせ、説明文には問いと答えが必要であり、問いの後に答えが置かれる構成になっていることに気付かせる。その際、文の役割が分かりやすいように、文を工夫して提示することが大切である。

具体的にはまず、生き物に関する不思議なことやすばらしい仕組みについて話し合わせたり、いくつかの鳥のくちばしに関するクイズに答えさせたりする活動を導入段階で行う。また、実際に自分なりにクイズ作りを試行させ、クイズとして成立するためには何が必要なのかを考えさせ、鳥のくちばしクイズ作りに対する興味・関心を高める。そして、終末段階でそれぞれが作ったクイズの大会を行うことを確認し、教材文を使った学習の必要感や、単元を通した学習の見通しをもたせる。

次に、狭い範囲での試行錯誤として、教材文にある鳥ごとに読み取らせ、鳥のくちばしについての内容が問いと答えで書かれていることをとらえさせる。さらにそれぞれの鳥ごとに読み取った内容を比較させ、どの内容にも問いと答えが同じ順序で書かれていて、それを説明する内容になっていることに気付かせる。その後、広い範囲での試行錯誤として、教材文を通して学んだことを生かして、提示したいろいろな鳥の写真を基に自分なりの鳥のくちばしに関するクイズを作らせる。

さらに終末では、単元のはじめにつくった試し作りのクイズと比較させたり、作ったクイズを友達同士で出し合わせたりして、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせたい。

このような学習を通して、子どもたちは、試行(試し作り)から学習の見通しをもち(計画性の向上)、課題解決のために柔軟にコミュニケーションを図り(協調性の向上)、「国語の能力」を身に付け、実生活に生かそうとすることで(責任感の高揚)、高まった自分を認めること(自己肯定感の醸造)ができるようになる。

なお、これらの学習を通して得られる能力や態度は、より複雑な説明文を読む際に文の役割を考えて正しく読み取る能力や、友達と学び合うよさや楽しさを味わったりするとともに、学んだ「国語

の能力」を実生活で生かしていこうとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 既知の知識	
○ クイズについて	・ 知っている (32) ・ 知らない(3)
○ 鳥について	・ 知っている(35) ・ 知らない(0)
(空を飛ぶ, 巣を作る, 卵を産む, 羽が生えている, 木にとまる, えさを食べる など)	
② 初発の感想 ※ 複数回答	
○ おもしろかった(30)	
・ 初めて知ってびっくりした(18)	・ 蜜を吸う鳥を初めて知った(3)
・ いろいろなとりのひみつが分かった(15)	
○ おもしろくなかった(5)	
・ もともと鳥を好きでない(1)	・ 知っていることだった(1)
・ 同じ話の繰り返しだった(1)	・ 難しかった(2)
③ 気付き ※ 複数回答	
・ 同じようなはなしが3つある (20)	・ クイズみたい(19)
・ 繰り返しがある(5)	・ 図鑑みたい(11) ・ 写真がある(11)
④ 問い・答えの必要性, 順序性	
○ 写真で	
・ 問いと答えがあるクイズ(4)	・ 問いだけ(5) ・ 無回答(24)
・ その他「～はどこでしょうか」「どうしてこうなっているのでしょうか」(各1)	
○ 文の並び替えで	
・ 問いと答えがあるクイズ(9)	・ 問いだけ(8) ・ 無回答(18)
⑤ 難語句 ・ さき(1) ・ はちどり(4)	

ほとんどの子どもたちは、これまでの日常生活の中でクイズに親しんでいる。また鳥と関わった経験が多くあり、自分の身近に感じている。導入の活動に生かし、単元への興味・関心を高めたい。(①) また、多くの子どもたちが、教材に対しておもしろさや驚きを感じている。子どもたちにとって身近な鳥を採り上げた学習活動を行うことで、学習意欲を喚起したい。(②) 気付いたこととして、3つの話が繰り返される構成に多くの子どもが気付くことができた。また、写真と文が対応していることにも気付いている子どもがいた。これらの気付きを学習内容と絡めて指導の効果を上げる手立てを考えていきたい。(③) 写真を見せてクイズを考えさせたが、多くの子どもが無回答であり、クイズを作れた子どもはわずかだった。文章を選択させる方法では、若干だがクイズが作れた子どもが増えた。クイズは問いと答えで構成されていることを具体的な例示をしながら丁寧に指導していく必要がある。(④) 難語句については、言葉だけの説明だけでなく視覚的な面からも理解させ、内容の読み取りに生かしていかせたい。(⑤)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちが文章の構成をとらえ、筆者の考えについての自分の考えをもって伝えるときに活用させるために(多面・総合, コミュニケーション), 学習内容や指導方法を次のように工夫することが大切である。なお、その際、子どもたち同士の話し合いの場面を積極的に設定し、伝え合う過程で自分の考えを深められるようにする。

ア 5つの文の構成に気付かせるために(多面・総合), それぞれの鳥についての内容の構成を比較させたり、問いや答えに何が書かれているかを考えさせたりする。

イ 問いと答えの必要性や順序性に気付かせるために(多面・総合), 鳥のくちばしや全体の写真を準備し、写真と連動させたり、文の役割ごとにカードを提示し、それを並べ替えさせて、それぞれの役割を考えさせたりする。

ウ 自分の学習を振り返らせ、学習の有用感を味わわせるために(吟味), 自ら作成したクイズを友達同士で交流させる。

3 目 標

- (1) 鳥のくちばしに関するクイズを作ることに興味をもち、文の役割を確認しながら事柄の順序を考え、進んで読むことができる。
- (2) それぞれの鳥についての文や写真を比較して、説明文には問いと答えがあることやその順序性をとらえることができる。
- (3) 問いと答えの内容や順序、文と写真の対応を考えながら、内容の大体を読むことができる。

4 指導計画（全 10 時間）

※□は、日常生活や他教科等との関連を示す。

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす③	生き物はふしぎだな。すごいな。	1 教材との出会い 「くちばしあて クイズ たいかいをしよう。」 ・ 生き物の不思議、おもしろさの発表 ・ くちばし当てクイズの実施	○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために(未来予測)，作らせたいクイズを実際に答えさせる。
	くちばしクイズを作ってみたいな。	2 試行（試し作り） 「クイズを つくってみよう。」 ・ クイズの試行（試し作り）	○ 学習の必要感を高めさせ、学習の見通しをもたせるために(未来予測)，自分なりにクイズの試し作りをさせ、どんなことをどのように学習していきたいのかをはっきりさせる。
しらべる・ふかめる⑤	クイズにはどんなことを入れればいいのか。	3 課題解決の見通し ・ 学習計画の立案	○ 多様な考えから文章の構成をとらえさせるために(多面・総合)，限定された範囲での試行錯誤として、教材文の読み取りを行わせ、問いと答えが必要であることに気付かせる。
	「くちばし」でくちばしクイズのしくみはどうなっているのか知りたいな。	クイズをつくるためには、どんなことがたいせつなのだろうか。 4～6 限定された範囲での試行錯誤 ○ 教材文の読み取りとクイズ作成 「○○クイズをつくるには 何がたいせつなのかな。」 ・ きつきクイズ ・ おうむクイズ ・ はちどりクイズ	○ 効果的な説明には、問いと答えの順序性が大切であることに気付かせるために(多面・総合)，教材文から読み取ったことを基に実際にクイズを作らせる。
ふりかえる・いかす②	クイズは「問い」「答え」「説明」でできているのだな。	7, 8 広い範囲での試行錯誤 「じぶんなりの クイズをつくるには 何がたいせつなのかな。」 ・ 自分なりのクイズの作成（本時） ・ クイズ大会の実施	○ 学んだ「国語の能力」を日常生活に近い場面で活用ができることに気付かせるために(多面・総合、つながり)，広い範囲での試行錯誤として、学んだことを生かしながら自分なりのクイズを作らせる。
	クイズのしくみを使って、自分なりのクイズを作ろう。	9 試行（試し作り）の見直し 「つくったクイズを みなおしてみよう。」 ・ 試行のクイズと完成したクイズとの比較 ・ 学習の振り返り	○ 考えに広がりや深まりを出させるために(コミュニケーション、協力)，相手間や集団内での話し合いの場面を意図的・積極的に設定する。
	やっぱり、クイズのしくみを使えば、自分なりのクイズが作れるぞ。	クイズをつくるためには、といて こたえがたいせつだ。	○ 本単元で学習した「国語の能力」をはっきりさせ、自己肯定感を高めるために(多面・総合、吟味)，試行したクイズと完成したクイズを比較させ、見直しをさせる。
	いろいろな学習や日常生活で、学んだことを生かしていききたいな。	10 活用場面の想起 「まなんだことを どのように いかせるかな。」 ・ 「問い」「答え」の構造の活用について	○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために(参加)，日常生活や他教科等の活用できそうな場面を話し合わせ、できるものについては実際に活用させる。
	学んだことが生かせるぞ。学習してよかったな。国語って楽しいな。		

5 本 時 (7 / 10)

(1) 目 標

自分なりのクイズ作りを通して、「問いのまとまり」と「答えのまとまり」の役割やその順序性の大切さを確認することができる。

(2) 本時の展開に当たって

クイズを構成する4つの要素（問いの説明、問い、答え、答えの説明）に気付かせるために（多面・総合）、それぞれの文をカードで提示し、並べ替えをさせて文を作らせ、コミュニケーションの力を発揮しながら、カードに書かれていることを友達同士で話し合わせる。また、子どもたちに順序性の大切さに気付かせるために（多面・総合）、前時までに作ったクイズを提示する。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。 じぶんの クイズをつくるときには、 どんなことが たいせつなのかな。	(分)	○ 自分で鳥を選んでクイズ作りをするという課題意識をもたせるために(未来予測)、鳥の写真を一斉に掲示する等の教室環境の工夫をする。
	2 学習の進め方を確かめる。 ○ 自分で考える。 ○ つくったクイズを友達と見比べる。 ○ クイズを作るときに気を付けることを確認する。	5	○ 見通しをもって主体的に学習させるために(未来予測)、実際に使用する具体物(カード等)を提示、操作して例示しながら学習の進め方を確認させる。
しらべる・ふかめる	3 4つのカードを並べて、クイズを作る。 きつつきやおうむのクイズと同じように 作ればいいのか。 自分で考える 写真の順序を考えてから、文の順序を考えよう。 友達と見比べる ○さんのクイズは、問い→答えの順序になっているね。 文の並べ方はいろいろあるけど、相手が答えやすくて、なるほどと思える順序があるんだね。 全体で確認する 問いのまとまりの中の文の順序と、答えのまとまりの中の文の順序にも秘密があるんだね。 【問いのまとまり】 ①問いの説明(くちばしの形)の文 ②問い(～でしょう)の文 【答えのまとまり】 ③答え(～です)の文 ④説明(くちばしの働き、えさの食べ方)の文	30	○ クイズの4つの要素やその構成に気付きやすいようにするために(多面・総合)、文の要素を役割で色分けしたカードを用いる。 ○ これまで学んだ「国語の能力」を駆使して主体的に学習に取り組めるように(多面・総合、参加)、写真と文のカードを組み合わせクイズを作らせる。 ◎ 文章の組み立てが考えられない子どもには、前時までの学習を振り返らせるために(多面・総合)、これまで作ったクイズを提示し、問いと答えの必要性や順序性を考えさせる。
	4 本時のまとめをする。 クイズをつくるときには、といてこたえの じゅんじょが たいせつだ。		○ 多様な意見を踏まえながら考えさせるために(多面・総合、コミュニケーション、協力)、自分なりに考えた後に友達と一緒に見直しをさせる。
ふりかえる・いかす	5 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを発表し合う。 文が変わっても、やっぱり順序は大切なんだ。	10	○ 学んだことを整理させるために(多面・総合)、実際に作ったクイズを互いに交流させることを通して、学んだ「国語の能力」を振り返らせる。 ○ 学習したことを振り返らせるために(吟味)、感想を述べさせたり、その理由を発表させたりする。